

きらめき

北斗市立大野中学校
研究部
第9号
2018.11.5

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり

～資質・能力の「三つの柱」の育成を目指して～

【めあて】研究授業を振り返り、明日からの授業に活かそう。

11月校内研修内容

主体的で対話的な深い学びの実現に向けた授業改善

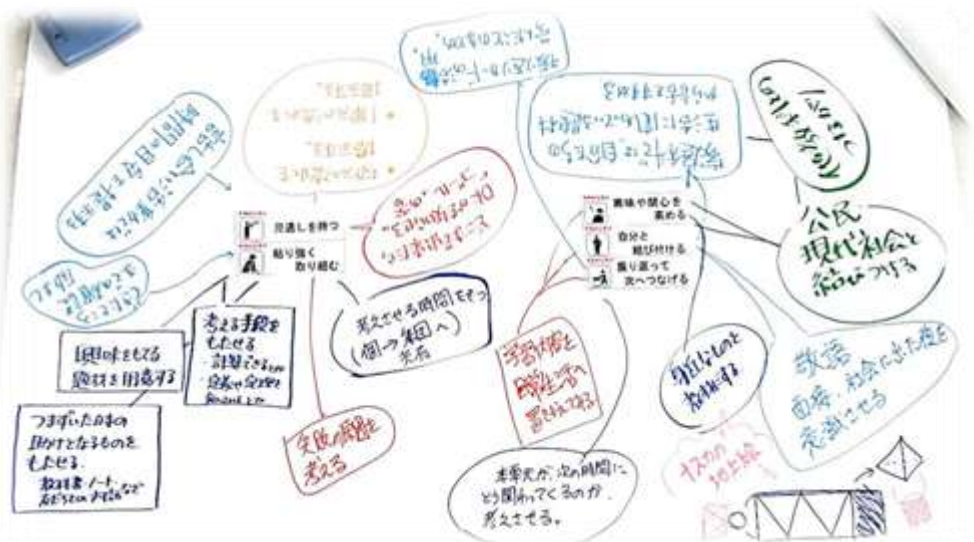
- ・2030年やその先も見通した社会の姿を見据えながら、今の子どもたちに向き合っていくことが重要。
- ・子どもたち一人一人が、個人の社会や成長のために、新たな価値を生み出していくことが求められていく。
- ・将来を予測することが困難となることが予想されるこれからの社会を生きるために必要な力として、生きる力を捉え直し、発揮できるようにしていく。

興味や関心を高める	見通しを持つ
自分と結び付ける	粘り強く取り組む
振り返って次へつなげる	互いの考えを比較する
多様な情報を収集する	思考を表現に置き換える
多様な手段で説明する	先哲の考えを手がかりとする
共に考えを創り上げる	協働して課題解決する
思考して問い続ける	知識・技能を習得する
知識・技能を活用する	自分の思いや考えと結び付ける
知識や技能を概念化する	自分の考えを形成する
新たなものを創り上げる	

<主体的な学びについて>

- ①見通しを持つ
- ②粘り強く取り組む
- ③興味や関心を高める
- ④自分と関連付ける
- ⑤振り返って次へつなげる

子供自身が興味をもって積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身についた資質・能力を自覚したり、共有したりすることが重要です。



<対話的な学びについて>

- ①多様な情報を収集する
- ②多様な手段で説明する
- ③共に考えを創り上げる
- ④互いの考えを比較する
- ⑤思考を表現に置き換える
- ⑥先哲の考えを手がかりとする
- ⑦協働して課題解決する

身につけた知識や技能を定着させ、多面的で深い理解に至るためには、多様な表現を通じて、教職員と子供や、子供同士が対話し、それによって思考を広げ深めていくことが重要です。

